

追悼

恩師古市先生を偲ぶ

工學博士 丹羽 鋤彦

先生は幼にして神童と呼ばれ、姫路藩の貫進生として大學南校に入り、選拔せられて文部省第一回留學生となり、佛蘭西に留學し、拔群の成績を以てエコール・サントラル及巴里理科大學を卒業してアンゼニール・デ・プール・エ・マヌファクチュール、リサンシユ・エス・シャンズの學位を授けられ、同窓佛國學生會望の中心となり、明治十三年歸朝後は官吏として内務技師、内務省土木局長、内務省土木技監、選信次官、鐵道作業局長官、朝鮮統監府鐵道局長官を歴任して土木技術及行政の基礎を固め、更に榮譽ある樞密顧問官に昇進せられ、教育家としては帝國大學令發布と共に帝國大學工料大學教授兼工料大學長となり、本邦最高學府工學教育の方針を定め、又下級技術員養成の爲め工手學校（現在工學院）の創立發起人となり、管理長として多年盡力せられたる外、東京工業學校商議員、高等教育會議議員、臨時教育會議

議員を命ぜられ、更に勅旨に依り東京帝國大學名譽教授の名稱を授けられ、學者としては學位令發布に際し工學博士の學位を授けられ、帝國學士院創設に當り勅旨を以て學士院會員を命ぜられ、又學術研究會議議員、理化學研究所長となり、科學界の泰斗と仰がれ、第一帝國議會議員に先ち貴族院令第一條第四項に依り貴族院議員に任ぜられ、民間事業に關しては日露戰役に當り朝鮮鐵道會社總裁となり、同鐵道速成の重責を完ふして、軍國に貢獻せられ、東京地下鐵道會社々長として、本邦最初の地下鐵道事業の基礎を固め、東亞興業會社々長として、本開發に努力せられたる外、鐵道、水力電氣等に關する幾多の會社に對し、顧問又は重役として指導せられ、土木事業の發達に資せられたること、尠からず、又一般産業に關する方面に於ては、數回に涉り、内國勸業博覽會の審査部長となり、日本大博覽會、日英博覽會の評議員となり、本

邦工業の進歩發展に寄與せられ殊に工學に關聯せる各種の調査會に於ては斯界の第一人者として委員申先生の名を列ねざるものなく土木會、東京市區改正委員會、臨時治水調査會、港灣調査會、道路會議、鐵道國有調査會、廣軌鐵道改築準備委員會、鐵道會議、震災豫防調査會、製鐵事業調査會、議院建築準備委員會、度量衡及工業品規格統一調査會、工業規格統一調査會、臨時電氣調査會、中央衛生會、足尾銅山鑛毒事件調査會、帝都復興院評議會を始め其の數枚舉に遑あらず又學會に關しては工學會の副會長及會長に重任せられ大日本工學會創立後は當初よりの理事長として今日に至り土木學會には創立第一回の會長に就任せられ更に名譽會員に推選せられ其の他日本動力協會々長、港灣協會副會長、鐵道協會副會長名譽會員たるの外多數の學會協會等に關係せられ殊に昭和四年萬國工業會議及世界勸力會議を東京に開催するに當り秩父宮殿下を總裁に仰ぎ率り老齡をも厭はず會長として終始盡力せられ我國工業及工學の發達を世界に紹介し彼我技術家の親交を深くせられたるが如き又世界的權威者を網羅せる英國土木學會及米國土木學會の名譽會員に推選せられたるが如きは孰れも國際的に先生の名譽の反響に外ならず更に佛國との關係に於ては日佛協會を起して日佛兩國國民の親交を敦くし交歡に勉められたる外或は日佛學者の交換教授に依りて兩國文化の連絡を深くし終に今日の日佛會館創設に至りたるが如き或は夙に東京佛學校及和佛法律學校（現在法政大學）を創設して佛國文化を紹介せられたるが如き先生は數十年間日佛關係の中心人物として努力せられ

れ國際關係上に隠れたる外交官たるの概ありしは世間周知のことなるべし實に先生は我國工學界の最大權威者であり國際的の學者であるのみならず政治方面にも幾多の功績を擧げられたのである大正八年十二月多年の勳功を御嘉賞あらせられ特に華族に列し男爵を賜りたるは誠に先生無上の榮譽なりと謂ふべし。

先生の功績は斯く多方面に渉る爲め詳細は他日更に綜合して發表せらるゝ機會があると信ずる故茲には蒸當り本協會に關係深き我國港灣事業に就て述べんと思ひしが此方面のみでも容易の事でないのである先生は内務省土木局長、土木技監たるの外多年港灣調査會委員として又本會副會長として本邦主要港の修築計畫に對し參畫指導せざるものなしと云ふも差支なく本邦商港の改良發展に貢獻せられたること頗る大にして一々其の内容を擧ぐるは困難であるから唯我國築港技術の極めて幼稚なりし明治三十二年頃に於て先生自から設計して築港計畫の範を示されたる東京横濱兩港の例を掲げ先覺者たる先生の卓見を紹介する端に止めんとす尙明治初期に於ける本邦治水築港等の工事は殆んど蘭人工師の設計指導に依りたるも野蒜港修築工事の中止以來築港工事は一大難物として一般に躊躇された時代に小規模の修築なるも當時所期の目的を達し新範例となりたる坂井港（三國港）補修工事には先生が關係せられたと聞くから附記す。

東京港修築計畫

東京築港の議は明治十三年東京府に設けられたる市區取調局に於

て市區の規模は港灣を基礎として定めざる可からずとの説に端を起し内務省雇工師蘭人ムルドル氏に設計を囑託し同十八年其の成案に就き審議を進められたるも實行するに到らず更に同二十一年先生が山縣内務大臣に隨行して歐洲に出張せらるゝに當り東京市より歐洲に於ける實験家を訪ひ東京築港計畫に關する意見を聴き復答せられたることを依頼せられたるを以て同二十二年歸朝後佛國工師ルノー氏の意見を報告せられたり不幸にして本案も財政の關係上其の儘自然延期の姿となりしが先生の直接東京築港に關係せられしは此時代より起れり降つて同三十二年東京市は改めて先生並に中山秀三郎博士に築港計畫立案を囑託せしを以て兩博士は調査研究の後同三十三年工費金四百萬圓の具體的計畫案を提出せられ當時の市會議長星亨氏も亦夙に帝都諸般の設備に關し憂慮する所あり遂に米國在勤中なるに拘らず進んで候補者に立ち市會議員となるや特に帝都設備の改善を提唱し就中東京築港を擧げて第一の急務となし其の實現に努力せる先覺の士なりしを以て此提案に對し韓旋大に勉め滿場一致東京市會を通過し市區改正委員會の同意をも得て市長松田秀雄氏は内務大臣に對し起工許可を求むる稟請書を提出し將に實行に移さんとする際不幸にして星議長暗殺の凶變に遭ひ其の後政府よりも何等の指令なく終に起工を見ずして蹉跎するに到りしは遺憾と謂ふべし然れども芝浦を中心とし芝離宮より砲臺に至る海面を内港に選定せられし此方針は東京港の基本計畫となり爾來隅田川河口改良工事の名に於て部分的に起工せられ實質的には本港改良の端緒を開き東京港今

日の發展を誘致したる幾多の設備も要するに豫め基礎的方針を與へられたる先生提案の結果と見るを得べし勿論具體的計畫の内容に就いては其の後環境の變化殊に著しきものあり第一本港に於て處理上最も面倒なりし荒川は改修工事に依り新放水路を流下して隅田川と分離したる爲め品川より深川方面に渉る全海面を利用する臨港設備の計畫を容易ならしめ第二政府は巨費を投じて横濱港の改善擴張を助長實施したる外民營事業として鶴見方面に船渠の大運河及廣大なる工場敷地の實現したる等先生計畫の當時に比し經濟上技術上共に重大なる變化を來したるを以て時勢に伴ひ設計變更の必要を生ぜしは當然の結果なれば此際特に實施中の東京港修築案の内容を三十有餘年前の提案に比較するの要なしと認む然れども先生始め先覺者の主張せられし東京築港の必要は既に事實の上に顯はれ唯其の規模の大小に關して充分横濱港の現狀を考慮するの餘地あるも現實の必要に適應する計畫全部が急速に着手せらるべきは毫も疑なきところに於て聊か先鞭を慰むるに足るべしと信ず今明治三十三年先生提出の意見書中築港方針に關する一節を左に摘載し設計當時の事情を知るの一助に供せんとす。

品川灣は全體に水淺く海底の傾斜甚緩にして砲臺を去る三海里以上に至らざれば五尋の線に達せず然るに既に一萬噸以上の商船を横濱に見るに至りたる今日にありては東京の港は少くも其一部に三十尺以上の水深を保たざるべからず故に東京の港は之を何れの方面に設くるも結局一大痼疾を免れざるは明なり。

掘鑿に依る築港の計畫に於ては成るべく狭小の水面に成るべく多数の船舶を繋留し得べき考案を採用せざるべからず且掘鑿より生ずる土砂は成べく之を有益なる土地の埋築に利用するを要す故に東京築港の計畫に就て經濟上適當と認むべき考案は現在の海面を掘鑿し其附近を埋築して岸接繋船所を設くること是なり繋船所は鐵道の聯絡容易にして且市街と水陸の交通至便なるを要す品川灣内に於て右の條件を具備する海面は芝浦を以て第一とす而して芝離宮より第五砲臺を経て品川砲臺に至る一線以内の海面は其形狀及面積恰當なるを以て之を繋船所設置の地域と定む。

次に港門の位置を定めざるべからず品川灣は前段述る如き地勢なるを以て假りに灣内に港門を置くとせば繋船所に達する航路を保護する爲に其兩岸に長さ數千間の突堤を築かさるべからず(中略)轉じて品川灣の南端たる羽根川燈臺附近の地勢を見るに一尋線と五尋線との距離僅に百四五十間に過ぎず海底の傾斜此の如く急なるは潮流の作用に因るものにして品川灣に出入する潮流は常に此突出點に觸れて一定の方向を取り其速度も一秒時二尺以上なるものあり港門を此地に置き潮流をして門前を不斷掃除せしむれば永く港門の水深を維持し得べきこと疑を容れず(中略)依て港門の位置は之を羽根川に定む。

港門より繋船所に至るは灣内を掘鑿して設くべき運河の如き航路に依らざる可らず故に船舶の幅濶するに方り其他風濤潮位等の關係に由り羽根川に於て出入の船舶一時停航する場合あり乃ち羽根

川に船溜を設くるを必要とす。

右述る所に依り東京の港は(一)羽根川船溜即前港(二)運河(三)芝浦繋船所即本港の三部を以て成る茲に各部の計畫を説明するに先だち東京の築港に關する他の考案に就て一言せんとす。

繋船所を市街の中心に近くるの目的を以て之を隅田川の兩岸若くは築地、石川島等に設くるの考案あり隅田川を川港として大船の用に供せんとするは一の空想に過ぎずして決して實行し得べきものに非ず隅田川の西濬を築地、石川島の間にて遮斷し其全流を東濬に注ぎ築地以下に築港するの案は一考の價値ある如し然れども此案たる東濬の淺深に莫大の工費を要するのみならず芝浦に計畫する如き規模を以て築港せんとせば築地附近即市街に近き地域に設くべき繋船所は其一小部分に過ぎずして其大部分は市街に遠さかるべし否らざれば現在の市街地に廣大なる潰地を生じ其費用は驚くべき巨額となるべし加ふるに工事の難易に就ても亦芝浦に比して大に不利なる點あり到底得失相償はざる考案と斷定せざるべからず但現在の濬筋及隅田川は將來港として不用に歸するに非ず次章に述る如く芝浦の繋船所は之を大船の用に供し小船は總て從來の如く隅田川を港として利用すべし而して現今の統計に依れば小船に依る輸出入の數量は大船に依るものに比して却て多額なるが如し果して然らば川港の效用は將來に於ても必ず鴻大なるを信ず。(下略)

東京横濱兩港の關係は多年の宿題にして東京築港着手の今日に於

ても未だ完全なる解決を見ず多少の議論あるが先生は明治三十一年横濱税関擴張工事計畫の際大藏省に提出せられし意見書中に本問題に論及し東京灣築港は單に時機の問題たるに過ぎず海に臨み多量の海路出入貨物を有する大都市に於て永く此問題を放擲し去るが如きは文明國に見る可らざる顯象なりと斷じ東京の貨物集散を主たる任務とする横濱港設備規模の大小は東京築港問題の落着を俟つて決定すべく今直に横濱港の現状を基礎として規模を定むるは大に過ぐるの虞ありと論ぜられたり誠に至言にして今日尙ほ東京港の前途を無視して徒に尅大なる施設を横濱港に試み又は横濱港の爲めに東京港當然の設備をも否認するが如き議論を聞くは遺憾なり此際既成設備利用の實況に鑑み公平なる立場に於て兩港の得失を比較し物貨輸送の系統を明かにし其本末を謬らず而かも共存共榮の爲め適當の方策を講ずることは爲政者は勿論關係市民の緊要なる問題なるべし。

横濱税関擴張工事

横濱港は明治二十九年第一期築港工事竣功し防波堤に依り保護せられたる安全なる錨地と一個の棧橋を得て現代的商港たるの第一歩を踏出したるも棧橋は背後連絡不備にして外國航路の一部客船の繋留に限られ其の他の貨客船は全部沖懸りの儘荷役する爲め外國貿易の發展に伴ひ横濱税関内荷揚場及上屋敷地の不足を來したる結果大藏省に於て税関擴張用地として海面埋立の議決定せしが主税局長目賀田種太郎氏(後の男爵)及營繕課長妻木頼實博士は此際歐米諸港の

如く岸接繫船、海陸聯絡設備施行の急務なるを主張し明治三十一年八月其の設計を先生に依頼せられたり先生は本邦從來の築港計畫が防波堤の築設、海面の浚渫を主とし海陸連絡の設備不充分なりしを痛感し且つ今回の計畫は本邦最初の試案であり今後主要商港の模範たるべきを思ひ其の依頼を快諾し直に調査設計に着手せられしが既に豫算提出期切迫の折柄なれば醜唇に拘らず自から筆を執つて短期間に設計を完了し九月工事計畫説明書を提出せられ直に明治三十二年度總豫算に計上せられ第十三議會を通過して實施することとなり本邦築港計畫上に一新紀元を與ふるに到れり而して此説明書中には本港施設に關する方針を始め岸壁、埋立、浚渫、上屋、倉庫、鐵道、道路、起重機等の計畫説明、工費概算、工事施行順序等を詳述せられあるも茲には之を略して單に施設に關する一般方針の一部を摘録して當時横濱港の實況に鑑み東京港との關係等を考慮せられたる先生の意見を紹介するに止めんとす。

横濱港は曩に東北兩水堤の築設ありしより以來平穩の碇繋水面を得て船荷役の如きは之が爲め著しき便利を得たること疑なしと雖も亦一方に於ては水堤を以て碇繋水面を界限したるが爲めに貿易の發達に伴ひ近來頻りに其狹隘を訴ふるに至れり蓋し水堤なるものは固より築港工事の一部たるに過ぎざれば兩水堤の築設は横濱築港の第一着手たるに外ならず而して目下の形勢を見るに其第二着手の工事を起すべき時機は已に切迫したるが如し築港第二着手の工事として横濱商業會議所の希望する所は大に港内を浚渫して碇

繫區域を擴張すると共に沿岸適宜の地を埋築して倉庫敷を設けんとするに在り、碇繫區域の擴張は勿論必要なりと雖も抑も碇繫なるものは徒らに大なる水面を占用するの不利あり且解荷役の不便あるを以て繁盛なる貿易港の設備としては到底之を以て満足すべきにあらず必ず同時に右の不利不便を避くべき施設なかるべからず棧橋増架の如きは此目的を達する一の簡便法なれども未だ完全なる設備と稱すべからず且已に倉庫敷埋築の必要あり宜しく之と同時に岸接繫船所を設くるの策を講ずべし岸接繫船所は其沿岸に上屋倉庫の設あるを以て税關の便宜より一般運輸の利益まで得る所棧橋の比にあらざること疑を容れざるなり。(中略)

明治三十年に於ける横濱港出入貨物の概数は其主要なる部分即ち税關の手を経たるものと日本郵船會社横濱支店取扱に係る内國貨物とのみにて輸出凡二十七萬噸輸入凡八十三萬噸合計百十萬噸に達す(中略)然るに今一步を進めて横濱港出入貨物集散の實況を見るに其大部分は東京を經過するものにして現に昨年日本郵船會社横濱支店に於て取扱ひたる内外貨物出入八十萬噸の内六十萬噸は海路を経て東京横濱間を往來したるものなり是に由て之を觀れば横濱港の主たる任務は東京の貨物を集散するに在りと云ふを得べし果して然らば横濱港の設備に關する規模の大小は東京灣築港問題の落着を俟て初めて決定するを得べきものなり案するに東京灣築港の問題は單に時機の問題たるに過ぎず其他日執行せらるべきは勿論なるべし人口百二十萬以上を有する一大都會にして海に

臨み其海路に依り出入する貨物も現に一年二百萬噸を超過するに拘らず永く此問題を放擲し去る如きは決して文明國に見るべからざる顯象なり。

横濱東京の關係は右に述ぶる如くなれば今直ちに横濱港の現狀を基礎として岸接繫船所の規模を定むるは大に過ぐるの處あり。(中略)

目下築設すべき繫船所の規模右の如し(註、岸壁總延長千間内有效長九百間にして同時に大船十艘を繋ぎ一ヶ年四十五萬噸の荷役をなし得る程度)とすれば之を税關近傍に設くること難からずして工事の點に於ても交通の點に於ても大に便利あるべし然れども之を以て横濱港に於ける今日の困難を救ふに至らざるは論を俟たず到底碇繫區域を擴張し解荷役を繼續して岸接繫船所の不足を補はざるべからず。(下略)

其後更に精細なる海底地質調査の結果に基き先生は凸字形埋築を凹字形に改め一萬噸級船舶の爲め新に水深三十二尺岸壁を加へ岸壁延長一千間を一千百二十二間半に増加するの變更案を提出せられ確定實施したるものは即ち今日漸港と稱する税關埋立地にして財政の關係上工事を二期に分ち海面埋立は明治四十四年三月陸上設備は大正三年六月に全部完成し新設備の利用は工事一部の竣成に伴ひ明治四十三年度より開始せり又本工費の一部を流用して施工せし棧橋改築は大正六年十一月竣功せしが此長年月に涉り先生は顧問として終始本工事に盡力せられたる功績實に大なりと謂ふべく竣功に際し特

に金杯一組下賜の恩命を受けられたるは其功勞に對するものとす。

先生薨去直後御通夜の際令婿衆議院議員法學士野田俊作氏の談話中に同氏が土木工事中先生得意の傑作を尋ねられた時横濱税關工事を其の内の一つに加へられたから大震災に依り其の大部分は破壊せられたるに非ずやと反問せしに外容の一部破壊せしも其の基礎は動かぬと答へられた山を聞き私は此答に二様の意味が含まれてあることを直覺したのである即ち海陸聯絡設備としての根本計畫は何等變更なく全部其の儘踏襲復舊せられたのであるから計畫の基礎に異動がないのが第一である又岸壁基礎は土丹岩盤上にあるものは勿論最も懸念せられし海底岩盤間の谿谷を横斷せし基礎不安の場處も異動なかりしは其の第二である而して震災に依る被害は方塊の滑動に依り岸壁上部の頭段を來たし爲めに上屋起重機までも損害を與へたのであるが未曾有の大震災に對し安全率の稍不足せし嫌ありとするも當時に在りては豫想し得ざる天災にして不可抗力の災害と諦むるの外なく萬一此點に關し不用意の誹ありとせば全く施行擔任者たる私の責任であると思ひ恐縮したのである殊に先生の得意とせられし本工事を竣功當時の儘永久に保存することを得ず修理改築を加へて外容に多少の變化を與へたるは一層遺憾に堪へないのである。

横濱税關工事を命心の作として擧げられたるを聞き更に思ひ出すことは本工事の設計及施行に對する先生の用意周到なりし點である第一に本工事は純然たる商港改良施設なるを以て行政上の系統よりは内務省主管工事として起工するを普通となすべきも當時内務省は

河川改修工事に追はれ事業費の全部を其の方面に支出し港灣改良に着手し得べき時機は豫測し難き狀況に在り然るに横濱港第二次改良工事の必要は既に切迫し居る折柄大藏省が横濱税關執務の必要上企畫せる本工事が幸に同港設備の改善に偉大なる效果を與ふるものとせば殊更起工者の所管を論ずるの要なく速に着手するの國家的急務を認めたと同時に海陸運輸の聯絡に對し本邦嚆矢の模範的新設備なるを以て進んで設計の任に當つたとの御直話である第二は明治三十二年大藏省部に實施機關の特設せらるゝや其の成功を期する爲め自ら顧問の重職を引受け設計事務囑託として中山秀三郎博士を推選されたが尙實地工事の擔任者としては幾多の先輩適任者あるに拘らず第五區土木監督署勤務中の私を推舉せられ且つ轉任の際特に署長沖野忠雄博士より大藏省工事竣功の上は再び内務省に復歸せよとの恩命を受けたることである此前後の事情を對照するときは茲に將來築港工事主管廳に對する兩先生寓意の籠れる一端を窺ふに足るべく他日の爲め内務省系統の青年技術者に港灣工事の實地經驗を與へんとする用意なりしやに推察し得るのである其の後大正八年大藏省主管横濱神戸兩築港工事の内陸上設備を除くの外一切を内務省に移管せられし際沖野博士より再び懇切に内務省歸參を勸告せられたるに拘らず當時各種の事情を考慮し辭退せしことは兩先生の御深慮に適ひ御恩誼に報ゆるの途に違ひたるに非ずやとも思はれ今更恐懼して居る次第である。

本工事の設計施工に關し重要な事項は一々先生の御指揮を仰い

たのであるが、顯官要職を歴任し非常に御多忙であつたに拘らず、暇を割いて綿密に研究指導を與へられ、特に新知識の應用新装置の利用に關して細心の注意を拂はれたのである。今其の一例として可動潜函（ケイソン・モヰイル）利用の經過を述べれば、當初岸壁基礎地均に袋詰泥礫土を使用する豫定なりしが、中山博士は當時施行中の佛國マルセイユ築港工事に倣ひ可動潜函を利用して基礎地均を爲すの有利安全なるを認め、且つ装置の内容は外國雜誌記事及簡單なる圖面に依るの外なきを以て其の概念に基づき新に工風して本工事に適應する装置を提案せられし爲め更に顧問の意見を徴したる際、先生は正宗の名刀も使用者の腕次第にて切味の違ふものである可動潜函の利用は外國にても先例尠なく、況んや本邦に於ては最初の試みであり其の装置は非常に複雑面倒であるから使用上は勿論製作上にも最大の注意を要し、小供が正宗の名刀を手にするが如き幾分危険の感あるも本邦技術の進歩に資すること大なるを以て周到なる調査を爲し最善の方法を選び實施せよとて潜函利用の工法を承認せられたのである。而して明治三十三年私が歐米諸港視察の爲め出張する際にはマルセイユ港の可動潜函は勿論築港、橋梁、隧道等工種の如何を問はず又可動たると沈置たるとを論せず、途中潜函利用の工事場に立寄り計畫を調査する外必ず自ら潜函に出入して實際作業の狀態を體驗して歸朝せよとの命令的御注意を受けたるに徴するも如何に先生が細心の考慮を爲されたかを窺ふに足るのである。幸に此潜函の製作作業共に好結果を以て目的を達し従業者に一人の犠牲者をも出さず成功裡に完了

し其の後朝鮮統監府鐵道局に於て鴨綠江及清川江鐵橋基礎に潜函を利用せられし際には本工事の器械設備を參考とし監督員も本工従事者中より採用せられ好成績を以て竣功したのである。爾來本邦に於て潜函應用の工事一時中絶せしが、大正十二年大震災後の復興事業に於て永代橋其の他の橋梁基礎に利用せられし以來再び多數潜函應用の工事を見るに到り孰れも好結果を得たり然れども其の濫觴は實に横濱税關工事に於て先生の明断に依り決行したものであり、當時毫も外國人の手を煩はさず而かも完全に成功せしことは先生を始め中山博士及工學士坂田鳴海君の御苦心推察に餘りあるも本邦技術上の進歩に貢獻した事は決して尠くないと信ずるのである。

帝國大學令發布せられ先生が工科大學長に就任せられた明治十九年に私は工科大學の第一年生であり卒業後も引續き約五十年の長きに涉り親しく御薫陶を受け今日に到りたる關係から師弟の情誼以上實に慈父に接するが如き感を以て終始心服敬慕して居る一人である。先生の徳望人格學識等に關することは勿論教育、政治、工業の各方面に涉り殘されたる功績は一般周知のことであり實に師表たるべき當代の大偉人と稱すべく殊に我工業界に於ては全般の信頼を一身に集められたる唯一の代表的耆宿であつたから先生の薨去に會し哀惜の念に堪へず俄に寂寥たる感を深くするは獨り土木關係の者のみではないのである。今や幽明其境を異にし一層偉大なりし先生の徳望と功績をと思ひ起し追慕已む能はず茲に御經歷中港灣關係の一部分を記述して亡き恩師の面影を偲ぶことゝなし願ひて哀悼の意を表す。